

東日本旅客鉄道株式会社

代表取締役社長 深澤 祐二殿

J R 東日本輸送サービス労働組合

中央執行委員長 佐々木 宏充

出区点検時間の適正化を求める申し入れ

2022年3月ダイヤ改正に合わせ「乗務員の業務等の見直し」施策により「3分前出場の廃止」「発車看視の廃止」「入区列車の在姿確認の廃止」「起床点呼後の5分の付加時間の廃止」等、多くの労働時間の見直しが実施されました。さらに提案内容にはなかった「徒歩時分」や「準備時間」の見直しも実施され、乗務業務にゆとりや余裕のない状況が生み出されました。

特に出区点検時間については、実測から距離計算を算出基準に変更したことから「定められた時間内では作業を終えられない」と、実作業と大きく乖離している現実が職場から報告されています。また、出区点検時分は「自動出区点検」に踏まえた時間計上をしているのか、もしくは「基本出区点検」をもとにしているのか不明確であると、現場からの声が届けられています。

これまで会社は一貫して「必要な時間は算出して計上している」と団体交渉において回答を繰り返していますが、現場現実を見れば、適正な労働時間が算出されているとは到底言えない事態です。労働の曖昧化はあってはならず、速やかな解決が必要です。

しだかつて、下記のとおり申し入れを行いますので、労使間の取扱いに関する協約に準じ、団体交渉は信義誠実対等の原則に従い秩序を保ち平和裡に行うことに踏まえて丁寧かつ具体的に回答をすること及び速やかな労使交渉の開催を強く要請します。

記

1. 運用行路表に指定する出区点検に係る時間について、標準的な労働時間計上の考え方ならびに算出方法を具体的に明らかにすること。
2. 車種別・編成両数毎の出区点検に要する時間を明確に示し、労働基準法第15条第1項および労働契約法第4条第2項に基づき社員周知を行うこと。なお、全ての出区点検に係る労働時間の算出の再見直しを行うとともに、これまでに労働時間が不足していた場合には、速やかに追給すること。

以 上